

2026 年 5 月 12 日 記者会見・質疑応答（大阪）

発表内容：2026 年 3 月決算について

日 時：2026 年 5 月 12 日（火） 16 時 00 分～16 時 45 分

場 所：日本銀行 金融記者クラブ（大阪）

発 表 者：りそな銀行	代表取締役社長	千田 一弘
関西みらい銀行	代表取締役社長	原藤 省吾
関西みらい銀行	執行役員	富江 充史
りそなホールディングス グループ 戦略部グループリーダー	小山 俊介	

【質疑応答】

Q1. JR 西日本との資本業務提携の狙いとは何か。またマスリテールを伸ばすためにどのようなことを考えているか。5 月 1 日の JR との会見では駅ナカや商業施設への店舗展開に言及していたが、どのような店舗を考えているか

A1.（原藤社長）

関西みらい銀行の強みは、中堅・中小企業のお客さまとの長年の取引関係やソリューション提供力にあると考えています。一方で、関西みらい銀行は設立から約 7 年の比較的新しい銀行であるため、ブランド力に課題があり、マスリテール領域は道半ばであると認識しています。

JR 西日本との資本業務提携は、このブランド力を補完し関西全域でマスリテールを展開するための大きな後押しになると考えています。特に重要と考えているのは、「WESTER ミライバンク（仮称）」というブランドで、アプリを活用してさまざまなサービスを展開していくことです。また今後、JR 西日本と協議していくこととなりますが、駅ナカにはアプリで提供するサービスをリアルでサポートする店舗を設けていきたいと考えています。店舗は従来のフルバンキング型ではなく、これまで当社が展開してきた軽量化店舗「ミニマルプラザ」で培ってきたノウハウを生かし、3～4 名体制で運営できる店舗を想定しています。

現在 19 店舗の「ミニマルプラザ」を、中期経営計画期間中に少なくとも 50 店舗程度へ拡大する方針であり、JR 西日本と協議しながら出店を検討していきます。

Q2. 先日発表された滋賀銀行と池田泉州ホールディングスの資本提携をどう見ているか

A2.（原藤社長）

経営方針や考え方によって、今後もさまざまな動きが出てくると思います。重要なのは、お客さまにとってどのような形が最良のサービス提供につながるかという点だと考えています。当社としては、JR 西日本と連携してお客さまにさまざまなサービスを提供していきたいと思っています。

Q3. 今回の JR 西日本との提携により、りそな銀行が考えるメリットや描く戦略は

A3. (千田社長)

りそなグループとしては、重要なマザーマーケットである関西において、新たな価値提供モデルをスタートさせる取り組みと位置付けています。

またりそな銀行としては、JR 西日本が持つ豊富な資産やお客さまとのつながり、開発案件への知見と、当社の信託機能・不動産機能を掛け合わせることで、新しい価値創造が可能ではないかと非常に期待しています。今後、さまざまな議論を進めていきたいと考えています。

Q4. 各銀行が BasS (Banking as a Service) の取り組みについて動きを強めているが、りそな銀行も検討しているか

A4. (千田社長)

デジタル化の進展により、さまざまな可能性が広がっていると認識しています。特定の形に限定することなく、いろいろな業種とのつながりや連携・提携なども視野に入れ、多角的に検討していきたいと考えています。

Q5. JR 西日本との BaaS の取り組みはどの程度の収益を見込んでいるか。また目標は

A5. (原藤社長)

今回公表した中期経営計画には、JR 西日本との資本業務提携の効果は一切織り込んでいません。提携の具体策や収益目標は、今後検討していく段階です。

一つのメルクマールとしては、JR 東日本の「JRE BANK」が約 100 万口座規模を目指していることから、当社としても意識すべき目線であると考えています。

Q6. 中東情勢が取引先や与信費用に与える影響について

A6. (原藤社長)

現時点で具体的にどの程度の与信費用が発生するかは慎重に見極めている状況です。お客さまへのヒアリング結果では「不安を感じている企業は約 6 割」「十分な対策が取れていない企業は約 8 割」といった状況でした。

当社としては、お客さまにきっちり寄り添っていく必要があると考えており、対策の一つとして総額 500 億円の「原油高対応特別ファンド」を設けています。2026 年 5 月 12 日 (火) 時点のお申込みは 18 件、約 25 億円と影響は限定的ですが、引き続き状況を注視していきたいと思えます。

Q7. JR 西日本が 20% 出資するまで踏み込んだ理由は。これからさらに引き上げる可能性は

A7. (原藤社長)

出資比率は、りそなホールディングスとしての考えに基づくもので、あくまで私個人の受け止めにはなりますが、りそなホールディングスの南社長、JR 西日本の倉坂社長との対話の中で、「一緒に関西みらい銀行を成長させていこう」という強いコミットメントと覚悟を感じました。その中で、20% 出資することが決まったものと認識しています。現時点で追加出資などの話は聞いていません。

Q8. 日銀の金利引き上げはどの程度業績に織り込んでいるか

A8. (千田社長)

政策金利は、グループ共通で年1回の利上げを見込んでいます。最終的に1%程度まで上昇する前提で業績予想を策定しています。

以 上